



洗足学園音楽大学



大学院リサイタルシリーズ⑤

# MUSIQUE FORESTIÈRE

5名の声楽家と音楽の森へ

2021年10月23日(土)

開演：13：00 (開場：12：40)

場所：洗足学園音楽大学シルバーマウンテン1F

入場無料

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

# 西村 理菜 院1・ソプラノ

Pf. 小林 千夏



## 〈プロフィール〉

東京都出身。3歳よりヴァイオリンを学び、15歳より声楽を学ぶ。国立音楽大学附属中学校、日本音楽高等学校、洗足学園音楽大学をヴァイオリン専攻で卒業。現在は同大学大学院声楽専攻1年に在学し、プライベートでは1児の母として奮闘。

12歳より毎年ムシカアレグレの長野ツアーに参加。自由が丘・女神まつりにて地元バンドのゲストボーカルを務める。大学時代は自ら老人ホーム等でのリサイタルを企画・開催。また、幼少より楽曲制作にも勤しむ。ヴァイオリンを小川恵美、七海浩一郎、荒井雅則、吉野薫、三浦知香子、水野佐知香の各氏に師事。声楽を岡島智子、金井隆子、塩田美奈子の各氏に師事。

## 〈プログラム〉

- I. G.カッチーニ / アヴェマリア  
Giulio Caccini(1551-1618)//Ave Maria
- II. Ch.グノー / アヴェマリア  
Charles Gounod (1818-93)// Ave Maria
- III. Ch.グノー / 悔悟  
Charles Gounod (1818-93)// Repentir
- IV. Ch.グノー / 歌劇《ロメオとジュリエット》より  
Charles Gounod (1818-93)// Roméo et Juliette  
私は生きたいの Je veux vivre  
愛よ、私を勇気づけて Amour ranime mon courage

## 〈曲目解説〉

### 「Ave Maria」

グノーの「Ave Maria」共に「世界三大 Ave Maria」と称される。しかし、この「Ave Maria」は実はカッチーニではなく、1970年頃にウラディミール・ヴァヴィロフという名もなき作曲家により作曲された曲である。ヴァヴィロフ自身が公開するが、当初は作者不明として扱われる。後にカッチーニの作品と言われるようになるが、ヴァヴィロフ本人は真実を語ることなく逝去する。

### 「Ave Maria」

1895年にヨハン・ゼバスティアン・バッハの「平均律クラヴィーア曲集第1巻」の「前奏曲第1番ハ長調プレリュード」を伴奏に、ラテン語の聖句「Ave Maria」を歌詞に用いた声楽曲である。厳密には、バッハのプレリュードに1小節だけ付け足されている。

### 「Repentir」

「Ave Maria」に比べると知名度は低いですが、宗教的要素とオペラアリア的要素を兼ね備えた美しい声楽曲。前半の激情的なメロディと後半の朗々としたメロディが対照的であり、聞き応えのある1曲である。

## 歌劇《ロメオとジュリエット》

シャルル・グノー作曲の歌劇《ロメオとジュリエット》は全5幕からなり、ウィリアム・シェイクスピアの戯曲「ロミオとジュリエット」を原作とする。グノーの作曲したオペラでは9作目にちり、「ファウスト」の次に成功を収めた作品である。1864年に作曲され、1867年にパリのリリック座で初演される。

### 「私は生きたいの」

ジュリエットがまだ見ぬ恋への憧れを歌う、多くの歌手に愛されてきたワルツ調のアリアである。

### 「愛よ、私を勇気づけて」

通称「毒のアリア」とも呼ばれ、結ばれないロメオとの駆け落ちを願うジュリエットが、仮死状態になる薬を飲むまでの葛藤を描いたアリアである。何も知らないロメオは、ジュリエットが服毒自殺を図ったと誤解し、自らも毒を飲んで自害してしまう。



# 後藤 ゆずか 院2・ソプラノ

Pf. 皆川 純一



## 〈プロフィール〉

宮城県出身。

洗足学園音楽大学声楽コース卒業。平成29年度様々な障害ある人ない人による演劇祭「チャレフェス演劇祭」にチャレフェス歌劇団として出演。平成30年度多摩美術大学コラボオペラ「魔笛」(日本語上演)で童子Ⅰを演じる。音楽大学在学学生、卒業生による混声合唱団「カンマーコール」や、女声合唱団「ゆめの缶詰」として数々の演奏会に出演。声楽を捻金正雄、大井範子の各氏に師事。

## 〈プログラム〉

- I. 0. レスピーギ / 《昔風の5つの歌》より  
Ottorino Respighi (1879-1936) // 《Cinque canti all'antica》  
時々耳にする L'udir talvolta
- II. 0. レスピーギ / でもどのように私は我慢できようか  
Ottorino Respighi (1879-1936) // Ma come potrei
- III. 0. レスピーギ / バルラータ  
Ottorino Respighi (1879-1936) // Ballata
- IV. 0. レスピーギ / ルビー色の美しい扉よ  
Ottorino Respighi (1879-1936) // Bella porta di rubini
- V. E. ヴォルフ=フェラーリ / 歌劇《イル・カンピエッロ》より  
Ermanno Wolf=Ferrari (1876-1948) // Il campiello  
さよなら、いとしのヴェネツィア Bondi, Venezia cara
- VI. V. ベッリーニ / 歌劇《清教徒》より  
Vincenzo Bellini (1801-1835) // I Puritani  
あなたの優しい声が Qui la voce sua soave

## 〈曲目解説〉

### 《5つの古風な歌》

レスピーギが1906年に作曲した曲で、第1曲から第4曲まではイタリアの詩人ジョヴァンニ・ボッカッチョ (Giovanni Boccaccio) の詩、第5曲はレスピーギが作曲した3幕の喜劇『エンツォ王』の曲である。今回は第1曲から第4曲までを歌う。

#### 「L'udir talvolta」

思い人の住む所を耳にしたり、そこに訪れる人を見ると、あまりの苦しさに心の中で消えていた炎が掻き立てられると、哀愁漂うメロディで歌い、最後に“あの人の出て来る家に私が行くことができたらな”と甘い願いを言う。

#### 「Ma come potrei」

愛する人と離れることは耐えられない、あなたがいなければ私は死んでいるも同然だと、心の動揺や浮き沈みを表現している曲である。

#### 「Ballata」

自分の望みが分からないと歌いはじめ、この痛みを和らげるために生きるべきか、死ぬべきかと素朴な感情を投げかける。そして、私から愛する人を奪った者に、私は羨み泣くだろうと力強く終わる。

#### 「Bella porta di rubini」

今までの3曲とは違い、光輝に満ちたような曲調である。扉(porta)は口を、真珠(perle)は歯を意味する。第1節では、喋らず微笑み黙ったままで、愛しい人との口づけは言葉の代わりになると歌う。第2節では、私を惹きつける愛らしい瞳に心は燃え、あの人は“愛しい人、私も燃えているわ”と言ってくれるだろうか、期待を込めて問いかけて終わる。

## 歌劇《イル・カンピエツロ》

1756年のヴェネツィアカーニバルのために、劇作家カルロ・ゴルドーニ (Carlo Goldoni) によって書かれた台本に基づいて、ヴォルフ・フェラーリが作曲した喜劇である。

#### 「Bondi, Venezia cara」

オペラの最後に結婚して旅立つことになったガスパリーナが、ヴェネツィアの街に別れを歌う時の曲である。“生まれ育ったカンピエツロは醜い場所なんて言いたくないわ。大好きなものこそ、美しいもの”と歌って幕が閉じる。

#### 「Qui la voce sua soave」

歌劇《清教徒》でエルヴィラによって歌われるアリアである。1835年にベッリーニが作曲し、ベルカントオペラの傑作と言われている。イングランド清教徒革命の中、議会派の娘であるエルヴィラと、王党派のアルトゥーロは互いに愛し合っており婚約関係にある。アルトゥーロが王妃を救うために逃亡し、議会から死刑宣告を受けてしまう。エルヴィラは恋人に裏切られたと勘違いしてしまう。彼女は彼と過ごした日々を思い出し、もしアルトゥーロが私の元に戻ってこないのならば、私は死んでしまいたいと狂乱する。



# 石川 敦也 院2・テノール

Pf. 林 菜月

## 〈プロフィール〉

福井県出身。

洗足学園音楽大学音楽学部音楽教育コース卒業。

同大学院声楽専攻に転科。声楽を相田麻純の各氏に師事。



## 〈プログラム〉

- I. F. トスティ / 理想の女性  
Francesco Tosti (1846-1916) // Ideale
- II. F. トスティ / もう愛なんてしない  
Francesco Tosti (1846-1916) // Non t' amo più
- III. F. トスティ / 暁は光から  
Francesco Tosti (1846-1916) // L' alba separa dalla luce l' ombra
- IV. G. ヴェルディ / 歌劇《リゴレット》より  
Giuseppe Verdi (1813-1901) // Rigoretto  
あれかこれか Questa o quella
- V. G. ビゼー / 歌劇《カルメン》より  
Georges Bizet (1838-75) // Carmen  
お前の投げたこの花を La fleur que tu m' avais jetée

## 〈曲目解説〉

### 「Ideale」

フランチェスコ・トスティ (Francesco Tosti, 1846年～1916年) によって1882年に作曲された。詩はカルメロ・エッリーコ (Carmelo Errico, 1848年～1892年) である。遠い思い出になった恋人の記憶を探っているようなやわらかくも情熱的な愛を表現した詩に抑制のきいた端正なメロディーという異色の魅力を感じた。

### 「Non t'amo più」

フランチェスコ・トスティ (Francesco Tosti, 1846年～1916年) によって作曲された。詩はカルメロ・エッリーコ (Carmelo Errico, 1848年～1892年) である。かつて愛した女性のことをもう愛していないと歌っている。回想の内容が歌詞にあり、愛の思い出をつづった前半部の短調から愛の喪失を歌う長調へ自然に高揚しながら移行することで、「現在」と「過去」の対比が生じ未練がましさを浮き立たせている。

### 「L'alba separa dalla luce l'ombra」

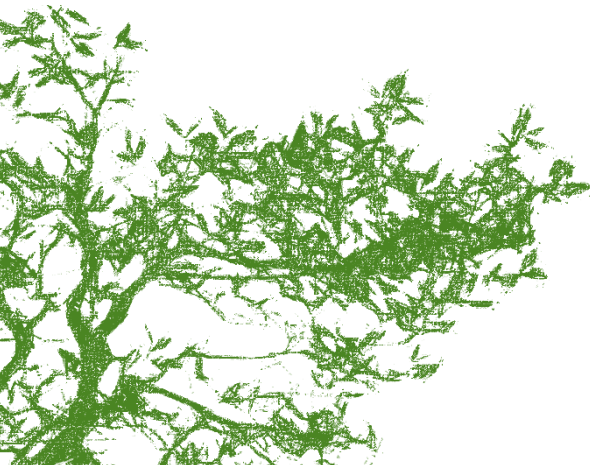
フランチェスコ・トスティ (Francesco Tosti, 1846年～1916年) によって1907年に作曲された。詩はガブリエーレ・ダンヌンツィオ (Gabriele D'Annunzio, 1863年～1938年) によるものである。この曲は「アマランタの4つの歌 (Quattro Canzoni d'Amaranta)」と呼ばれる歌曲集の2曲目。精緻で楚々としたものの多いダンヌンチオの詩につけたダイナミックで情熱的トスティの美しい旋律は珠玉である。

### 「Questa o quella」

ジュゼッペ・ヴェルディ (Giuseppe Verdi, 1813-1901) が作曲の1851年に初演された歌劇《リゴレット》の第1幕第1場で、マントヴァ公爵 (テノール) によって歌われる。時は16世紀、舞台はイタリアのマントヴァ、公爵の館。舞踏会の広間に、公爵とボルサが現れる。公爵はボルサに「三カ月前から教会で見かけている若い娘を口説きたい。」と話したいと言う。そう言いながらも、公爵は舞踏会にいるチェプラーノ婦人にも色目を使っている。そこで公爵は自分の女好きを高らかに歌いあげる。

### 「La Fleur que tu m'avais jetée」

ジョルジュ・ビゼー (Georges Bizet/1838年～1875年) によって作曲された歌劇《カルメン》の第2幕で歌われるアリア。美しく気の強いカルメンは、仲間の女たちと喧嘩して、牢獄に入れられるはずだったが、彼女を捕まえた衛兵のドン・ホセは、カルメンの誘惑に負け、彼女を逃がしてしまう。そしてその罪で彼自身が投獄されてしまい、1か月後に出てきたホセを、またカルメンが歌い踊り、誘い、悪事の道へと引き込もうとする。それでも兵営に帰ろうとするホセに、自分は愛されてないと嘆く、そんなカルメンにホセがどれほど愛しているかを伝えるアリアである。



# 上荒磯 佐和 院1・ソプラノ

Pf. 林 菜月



## 〈プロフィール〉

神奈川県出身。

洗足学園音楽大学声楽コース卒業。

すずかけ児童合唱団に所属し、CM「JR 東日本」「カルピスの天然水」他、CM録音、TV出演やコンサートに多数参加。在団時に「花とライオン児童合唱音楽賞」「日本童謡賞」特別賞受賞。平成30.31年令和元年度特別選抜生に選出。前田奨学金を授与。井上道義指揮のマーラー千人の交響曲にて首都圏音楽大学合同合唱団として参加し、天使のコーラスに選抜される。平成31年度多摩美術大学コラボオペラ「コジ・ファン・トゥッテ」にドラベッラ役で出演。声楽を紙谷弘子、吉岡小鼓音、柳澤涼子の各氏に師事。

## 〈プログラム〉

- I. W. A. モーツァルト / クローエに  
Wolfgang Amadeus Mozart(1756-91)// An Chloe
- II. W. A. モーツァルト / タベの想い  
Wolfgang Amadeus Mozart(1756-91)// Abendempfindung
- III. G. フォーレ / ゆりかご  
Gabriel Fauré(1845-1924)// Les berceaux
- IV. G. フォーレ / 秋  
Gabriel Fauré(1845-1924)// Automne
- V. G. フォーレ / 夢のあとで  
Gabriel Fauré(1845-1924)// Après un rêve
- VI. G. ヴェルディ / 歌劇《エルナーニ》より  
Giuseppe Verdi(1813-1901)//Ernani  
とうとう夜になってしまったわ〜エルナーニ！一緒に逃げて！  
Surta e la notte〜Ernani!Ernani involami!



## 〈曲目解説〉

### 「An Chloë」

この曲は1787年、モーツァルトが31歳の時に作曲された。詩はJ. G. ヤコビによって書かれていて、13節の原詩の冒頭の四節が用いられている。歌曲とアリエッタの中間的なものであり、旋律は弦楽4重奏にも用いられている。四分の四拍子の快活なテンポで歌われるこの曲は、意中の女性への気持ちの高まりが表現されている。まさに人生の「春」を高らかに謳い上げられている。

### 「Abendempfindung」

この曲は「A Chloë」と同年の1787年に作曲された。この年は9曲もの歌曲を作曲しており「歌曲の年」とも呼ばれている。特に「クローエに」とこの「夕べの想い」はモーツァルトの父のレオポルドが他界した翌月の6月に作曲されている。「クローエに」が人生の「春」ならば、この「夕べの想い」はまさしく人生の「秋」。しっとりとした曲調で紡がれている。

### 「Les berceaux」

この曲は1882年、フォーレが37歳の時に作曲された。フランスの高踏派詩人シュリュ＝プリュドムの詩につけた悲しげにたゆたうようなメロディが、不幸な赤ん坊をあやしながらひとり嘆いている女の人を見るようで印象的である。好奇の思いに満ちた男たちが、船団と共に水平線へ向かって船出するのを、波の動きに港で待つ女たちの優しく揺するゆりかごの動きを重ね、心が引き止められるのを感じる。柔らかく揺れる分散和音に乗って歌われる旋律は愛情や深い感動を与える。

### 「Automne」

この曲はフォーレが1878年、33歳の時に作曲した。詩を書いたアルマン・シルヴェストルの遺言に通じる内容と言われている。一貫して冥想と嘆きが歌われている。人生の秋に当たってかつての青春を回想するその悔恨の情が深く心に刺さる作品である。かつての思い出の中で、繊細なバラの花が明るい陽の中で群がり咲くのを感じ、20年間忘れていた涙が再び眼にのぼって来ると歌われる。

### 「Après un rêve」

この曲は「Automne」と同年の1878年、33歳の時に作曲した。歌詞は、イタリアのトスカーナ地方に古くから伝わる詩を、フランスの詩人R. ビュッシーヌがフランス語に翻訳した。この曲は流麗な旋律によってあらゆる人に愛されている。愛の夢に酔いしれる楽しさ、そして愛の夢の冷めた後のはかなさが、熱っぽい高揚を伴いながらうたわれる。

### 「Surta è la notte, ~ Ernani! involami」

このオペラはヴェルディが1844年に五作目の作品として作曲され、ヴェネツィアのラ・フェニーチェ座で初演された。後の歌劇《リゴレット》と同じく、ヴィクトル・ユーゴーの史劇を元として書いたメロドラマである。当時のヴェルディは激しいドラマによって、その劇的な表現力の可能性をひろげ、確かめようとしていた。このアリアは第一部の第二場、シルヴァの城のなかにあるエルヴィーラの部屋で歌われる。老貴族シルヴァは彼女を自分の城に連れてきて、結婚を迫る。エルヴィーラは彼に愛情はなくひたすらに恋するエルナーニに想いを寄せてこのアリアを歌う。型どおりの前奏とレチタティーヴォに続くカヴァッティーナは、変ロ短調、3/4、Andantino、伴奏の三連音の分散和音は、ドニゼッティやベッリーニがよく使っていたものに近い。後半は華やかなコロラトゥーラのパッセージとなっている。この後、中間のシェーナに当たる部分に、長い合唱曲が与えられ、続くカバレッタに続く。調性は同じく変ロ短調で、4/4拍子、Allegro con Brioになり、難しい技術の求められるパッセージになる。



# 長島 彩 院2・ソプラノ

Pf. 皆川 純一



## 〈プロフィール〉

東京都出身。

平成31年度洗足学園音楽大学声楽コースを主席で卒業。

第17回洗足学園ジュニア音楽コンクール 声楽部門 優秀賞受賞。

学友会コールフантаジアの一員として単独コンサートなど多数出演。

平成30年度洗足学園オペラ「ヘンゼルとグレーテル」魔女役として出演。

多摩美術大学とのコラボレーションオペラでは平成30年度「魔笛」ダーメ1役、平成31年度「コジ・ファン・トゥッテ」フィオルディリージ役で出演。平成31年度洗足学園音楽大学リサイタル講座において最優秀賞受賞。読売新聞社主催第90回新人演奏会に出演。前田奨学金、明治安田クオリティオブライフ文化財団奨学金を取得。

声楽を山田真希、神谷明美の各氏に師事。

## 〈プログラム〉

I. R. シュトラウス / 万霊節

Richard Strauss (1864-1949) // Allerseelen

II. R. シュトラウス / 僕は愛を抱いている

Richard Strauss (1864-1949) // Ich trage meine Minne

III. G. ドニゼッティ / 歌劇《ランメルモールのルチア》より

Gaetano Donizetti (1797-1848) // Lucia di Lammermoor

Il dolce suono ~ Spargi d'amaro pianto 彼の優しい声が ~ この世の苦い涙を

## 〈曲目解説〉

### 「Allerseelen」

ヘルン・フォン・ギルムの詩にリヒャルト・シュトラウスが 1885 年に作曲し、彼にとって最初の歌曲集《最後の葉による 8 つの詩》の第 8 曲目である。

「万霊節」は「死者の日」とも呼ばれ、キリスト教で全ての死者の魂へ祈りを捧げる日の事である。日本でいうお盆やお彼岸の様なもので、お墓参りを行う。

この曲は、すでに他界した恋人のお墓で昔の愛の日々を思い出している歌である。詩は「いつかの 5 月のように再び君と愛を語り合いたい」と語りかけるように始まる。次第に「周りの目など気にせず手を握っておくれ、そしてまた君を抱いていたい」と情熱的に変化する。曲想は繊細かつ力強い印象へ変化するが、最後は切なさの中に穏やかさを感じさせる。

### 「Ich trage meine Minne」

リヒャルト・シュトラウスが 1899 年に作曲した《5 つの歌》より第 1 曲目である。彼が愛する妻であるパウリーネに捧げた曲である。

カール・ヘンケルの 2 節からなる詩のうち第 1 節は最後に反復する 3 部形式になっている。彼の詩は愛をととても真っすぐに紡いでいる。

「僕は愛を抱いている、君と出会えたことは喜びなんだ」と恋人を想う愛を口ごもりながら語り出す。中間部は「空が曇っていても、君の無垢な雪の前では気にならない」と恋人の清らかさを汚れた世の中と対比している。

甘美で素朴な曲調は次第に複雑になっていくが再び穏やかさを取り戻してゆく。

## 歌劇《ランメルモールのルチア》

1835 年にドニゼッティにより作曲されたオペラ・セリアを代表する作品である。

1669 年にスコットランドで実際に起こった事件を物語にした、ウォルター・スコットの『ラマムアの花嫁』を原作としている。

### 「Il dolce suono～Spargi d'amaro pianto」

この作品、最大の見せ場である狂乱の場で歌われるルチアの aria。

場面は城内の大広間。結婚の祝宴が繰り広げられている中、婚約者のアルトゥーロを刺し殺してしまい、真っ白な夜着を赤く染めたルチアが広間に錯乱状態で姿を現す。血の気の引いた顔はまさに亡霊のようである。周りの人々が哀れみの声をあげるが、幻覚にとらわれたルチアは恋人であるエドガルドとの過ぎ去った愛の日々を思い出して歌う。そして神に祝福されている 2 人に喜びを感じながら、息絶える。彼女と寄り添うようなフルートとのカデンツァが印象的な aria である。

